



日本福祉大学附属高等学校同窓会会報 たちばな

会長挨拶

ご挨拶



同窓会会長 小塚 光夫

このたび前会長丹羽典彦氏の後を継いで高校同窓会の会長の任に着くことになりました小塚光夫です。前会長のように上手くことを進めることが不得意の為、同窓会員皆様方のお力添えご尽力なくしては、この大任を全うすることが出来ません。何卒ご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

さて、私の高校時代はまだ名古屋の昭和区の山里にありました。この挨拶文を考えていると、ふとあのころのことを思い出してきます。バス通学者は「妙見町」行に乗り、市電通学は「八事」行に乗って杖中で降りならかな坂道を、てくてくと歩いて行ったものでした。今は、地下鉄になり、その周辺もみちがえる程に変貌してしまいました。そして当時の校庭は細長く、体育の時間中や運動会になると 20 分程砂利道を歩いて総合グラウンドに移動、後にそこは、プレハブ校舎となり、そして今の知多奥田へと移転していったのでした。その跡地にはマンションが建ち、住宅が建ち並び随分と様変わりしています。

先日書棚を整理していたら、偶然にも高校の所在地から名を付けた機関紙「山里」がみつかり、懐かしく読みふけりました。

母校を卒業して 45 年たった今、同窓会に携わることになるうとは、まこと不思議な縁を感じる次第。さてさていつまでこの任が務まるかはわかりませんが、同窓会員の皆様はじめ母校の諸先生方のお力添えを大いに期待しつつ、責任を全うしたい所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

(9 回生・1968 年度卒)

2014 年度の主な事業のお知らせ

同窓会幹事会

日時 2014 年 5 月 31 日 (土)
場所 日本福祉大学附属高等学校

3 団体合同講演会

日時 2014 年 5 月 31 日 (土) 14 時 45 分
場所 日本福祉大学
講師 角野栄子氏 (童話作家)

■ 講演後に書籍販売、サイン会を予定しています。

ゆりのき祭開催のお知らせ

日時 2014 年 9 月 28 日 (日)
内容 餅つき、模擬店、同窓会活動報告

■ 同窓会皆様のご参加をお待ちしています。
前日準備 (13:00 頃～) もぜひご協力ください!

同期会等開催費助成制度のご案内

本会の中心的活動の一つである卒業同期会等の開催を促進するために、【同期会等開催助成】をおこなっています。クラス会やサークル OB・OG 会の開催についてもこれを準用していますので、同期会等催される際にはご一報ください。

1 申請者

本部に登録された各卒業年度の幹事は、会長宛に【同期会等助成申請書】を提出してください。

なお、同期会・クラス会の開催にあっては宛名シール (同窓会名簿による) の発行を希望するときはその旨を申し出てください。

2 助成金の交付

会長は、申請の事実を確認し幹事宛に各年度一回に限り、次の金額を交付します。

- (1) 同期会の開催にあっては、10,000 円。
- (2) クラス会及びサークル OB・OG 会にあっては、3,000 円。

3 その他

- (1) 申請は、当該年度に開催する同期会等を対象とします。

(2) 同窓会本部は、申請者に対し【同窓会費納入のお願い】文書を参加予定者分送付します。

なお、高校や学校法人が発行するパンフレット等を希望するときは提供します。

(3) 助成金の交付を受けた幹事は、所定の報告書を提出してください。

(4) 参加者に対し同窓会本部が要請する「会員会費のお願い」を周知していただき、ぜひ当該年度分の納入を呼びかけてください。(後日、氏名・金額を明記して送金・送付)

(5) 本部役員に出席の要請があるときはその旨申し出てください。常任幹事で調整します。

同窓会活動報告

- 1 会務の運営強化
- 2 委員会活動の強化推進
- 3 会員・幹事等交流事業の実施
- 4 会員・ホームページを中心とする広報活動の実施
- 5 在校生との交流・支援事業の実施
- 6 母校並びに関係支援団体との連携強化

同期会報告

- 2013年4月27日(土)
- 主催者** 川瀬克幸 **卒業年度** 1982年度
- 開催場所** レストランリヴィエール
- 2013年11月23日(土)
- 主催者** 中村勝彦 **卒業年度** 1977年度
- 開催場所** 地鶏坊主(名駅寺店)

会 計 報 告

2012年度同窓会会計決算

(収入の部)

項目	2012年度予算額	2012年度決算額	備考
前年度繰入金	1,778,139	1,778,139	
入会金収入	810,000	810,000	入会金 (@5000 × 151名)
会費・寄付金収入	50,000	83,295	
大同窓会会費	0		* 2008年度のみ
利息収入	302	283	銀行利息(普通預金のみ)
合計	2,638,441	2,671,717	

2013年度同窓会会計予算

(収入の部)

項目	2013年度予算額	備考
前年度繰入金	1,478,340	
入会金収入	710,000	入会金 (@5000 × 142名)
会費・寄付金収入	50,000	会費 (@1000 × 50名)
利息収入	283	銀行利息
合計	2,238,623	

(支出の部)

項目	2012年度予算額	2012年度決算額	備考
事務費	100,000	20,377	* 業務費
消耗品費	30,000	0	
印刷費	50,000	0	
通信費	10,000	1,000	
アルバイト費	0		
雑費	10,000	19,377	残高証明書手数料、特別給付選考委員会旅費、学園長葬儀供花
会議費	250,000	55,095	* 会議運営費(通信費、会議費、交通費)
幹事会	60,000	19,100	1回
常任幹事会	90,000	35,995	5回
委員会	100,000	0	
事業費	1,283,000	1,117,905	* 各事業運営費
文化講演会	100,000	58,344	三団体合同文化講演会負担分
会報発行	500,000	453,834	印刷費、発送作業費、送料
交流企画	100,000	7,360	ゆりのき祭企画
ホームページ運営	350,000	404,490	委託費
特別給付奨学金	100,000	100,000	積立拠出
新会員記念品	81,000	73,353	卒業証書ファイル贈呈
同期会支援金	52,000	20,524	1982年度、1984年度
備品費	10,000	0	パソコンリース料
予備費	995,441	0	
支出合計	2,638,441	1,193,377	
次年度繰越金	0	1,478,340	
合計	2,638,441	2,671,717	

(支出の部)

項目	2013年度予算額	備考
事務費	100,000	* 業務費
消耗品費	30,000	
印刷費	50,000	
通信費	10,000	
アルバイト費	0	
雑費	10,000	残高証明書発行手数料、特別給付奨学金選考委員会旅費など
会議費	250,000	* 会議運営費(通信費、会議費、交通費)
幹事会	60,000	@60000 × 1回
常任幹事会	90,000	@15000 × 6回
委員会	100,000	各委員会
事業費	1,273,000	* 各事業運営費
文化講演会	200,000	運営費負担分+懇親会負担分
会報発行	500,000	
交流企画	100,000	ゆりのき祭、役員との交流ほか
ホームページ運営	250,000	年間契約料、個別メンテナンス費
特別給付奨学金	100,000	積立金
新会員記念品	71,000	卒業証書ファイル寄贈 (@500 × 142名)
同期会支援金	52,000	5件見込み
備品費	0	パソコンリース料
予備費	615,623	
支出合計	2,238,623	
合計	2,238,623	

同窓生の皆さん！会費（一人年1,000円）の納入、寄付にご協力ください

ゆうちょ銀行
 金融機関コード：9900 店番：089 種目：当座 店名：〇八九店
 口座番号：0169025 加入者名：日本福祉大学附属高等学校同窓会

2013年度 常任幹事会 役員名簿

役員	氏名	卒業年度(西暦)	常任幹事	氏名	卒業年度
会長	小塚 光夫	1968年度卒業	常任幹事	半田こすも	2000年度卒業
副会長	丸山 容子	1978年度卒業		江ノ上敦士	2001年度卒業
	吉村 和幸	1984年度卒業		古川 真帆	2005年度卒業
会計	丸山 容子	1978年度卒業	監事	武田 颯	2011年度卒業
	迫田 真希	事務職員		池田 修三	1962年度卒業
常任幹事	福岡 正之	1971年度卒業		堀場 純矢	1993年度卒業
	富岡 隆治	1983年度卒業	丹羽 典彦	1960年度卒業	
	新美 滋啓	1987年度卒業	岩本 憲之	校長	
			君田 竜一	事務長	

役員紹介

回	生	卒業年度(和暦)	卒業年度(西暦)	1	2	3	4	5
1		昭和 35	1960	(佐藤 友彦)	* 丹羽 典彦			
2		36	1961	桜井 敏寿				
3		37	1962	* 池田 修三				
4		38	1963	(山東 克彦)				
5		39	1964	吉田 孝仁	水野 義広	水野 孝安		
9		43	1968	大久利一男	* 小塚 光夫			
12		46	1971	河村 昇	* 福岡 正之			
14		48	1973	山田 順子	青山 伸吉			
15		49	1974	水野 英子	古澤美代子			
17		51	1976	平瀬 哲則				
18		52	1977	中村 勝彦	鬼頭 和則	青山 智弘	高木 真澄	
19		53	1978	* 丸山 容子	桂 佳男			
20		54	1979	高垣 充				
21		55	1980	寛 重和	菊地 淳子			
22		56	1981	岡本 吉治				
23		57	1982	川瀬 克幸	(渡辺 美雪)			
24		58	1983	福井 政浩	榊原 京子	樋口 吉己	* 富岡 隆治	
25		59	1984	古川 裕資	大井智穂子	* 吉村 和幸		
26		60	1985	福地 充洋				
27		61	1986	松田 洋幸				
28		62	1987	小林 純徳	* 新美 滋啓			
29		63	1988	渡邊真理子				
30		平成元	1989	仲野 智	久田 里子			
31		2	1990	瀬尾 隆之	中野 ゆか			
32		3	1991	木俣 聖佳				
33		4	1992	富田 達郎	竹川 寅之			
34		5	1993	岩田佳奈子	西 将志	藤原 聡子	* 堀場 純矢	
35		6	1994	白井 雅樹	(榎戸 幸子)			
36		7	1995	佐藤かおり	鶴長 泰輔			
37		8	1996	布目 達彦				
38		9	1997	尾之内 童	白石 優理	長谷川純子	宮川 鮎美	寺澤 由紀
39		10	1998	一村 美和				
40		11	1999	吉口 史晃				
41		12	2000	鶴飼 健史	御手洗 旭	* 半田こすも		
42		13	2001	* 江ノ上敦士	武田 恵子	廣瀬 美子		
43		14	2002	大久利勇輝	樋口由香里	佐々木諒真	榎本 千香	
				長坂 創太	久野 達也	堀田 瑞樹	深谷 愛美	
44		15	2003	有馬 将太	今井 佐栄			
				神野 由貴	田島由佳子	山下さなえ	野々垣聡子	鈴木 警史
				小野 七絵	内田 愛	小川 友子	宮澤 枝里	根崎 芳行
				小牧 直哉	相羽 優香	小山 奈未	深谷 典子	
45		16	2004	清水 大介	村上 辰之	山下 雄規	中平 猛	
46		17	2005	北浦 稔	塚田 康人	水谷佳那子	菊地 宏晃	渡辺 拓也
				舟橋 佑希	* 古川 真帆			
47		18	2006	永田 悦子	生田 卓也	竹内 甫	大河内 恵	小島 祐助
				浜野 由莉				
48		19	2007	鶴見 匠	眞鍋智奈実			
49		20	2008	沖田 昌紀	椎葉 梢			
50		21	2009	竹内 航太	小田ひとみ			
51		22	2010	青山 聖恵	長屋亜矢子			
52		23	2011	* 武田 颯	梶原 裕子	浅井真莉子		
53		24	2012	西保皓太郎	奥村 仁美	戸村 龍昇		

* : 役員 () : 世話人

同窓生の活躍

■市丸 義之さん（ペンネーム：町丸義之）（1984年度卒）

学園が美浜キャンパスに移転して30年が経過。振り返ると私たちは3年間美浜キャンパスに通って卒業した最初の学年、第25回生です。

高校卒業後は生活の拠点を東京に移しました。ご縁があってそれこそ今年度30周年の“東京ディズニーランド”で働きだしました。

そこでは、“トレーナー”とって新人教育をする担当や“ワークキングリード”とって部署毎を束ねて運営をしていく責任者をさせていただきました。今考えるとそういった“リーダーシップ”の礎は、高校時代の“リーダー合宿”あたりにあったのかもしれない…（笑）

2012年2月、ご縁があって東京ディズニーランドやそれ以外の職場での経験を『ディズニーランド伝説のトレーナーが明かすミッキーマウスに頼らない本物の指導力（こう書房）』という原稿にしたため、出版しました。現在は執筆や講演活動で全国をまわっています。こういったご縁で愛知県私学の“サマーセミナー”や本校文化祭での講座を担当させていただくこともありました。

またこの出版がご縁で、2013年4月に刊行された『ディズニーランドであった心温まる物語（あさ出版）』にも寄稿させていただきました。

実は『ディズニーランドであった心温まる物語』。この売上によって得た印税は、すべて東日本大震災で震災孤児になってしまった子供たちを元気づけるため、東京ディズニーランドに招待することに使われます。

いっぽう母校においても先の大震災以降、在校生はその支援活動に取り組んでおり、文化祭などでもそれらをテーマした研究や発表がリリースされています。

出版主旨と在校生の活動主旨がリンクし、文化祭などでの書籍販売では、用意数の完売が相次ぎ、みなさんのお気持ちやお力添えに感謝するしかありません。ありがとうございます。

こうやって振りかえると、卒業から本校での講演や書籍販売に至るまで、すべてが“ご縁”。人とのつながりや絆を大切にしていることは、何十年も継承される本校の規範であると改めて感じる事ができました。同級生や同窓生って、いいものですね。



■ 近藤友美さん（2003年度卒） 江ノ上敦士さん（2001年度卒）

日本福祉大学付属高等学校では、毎年11月に行われる「第4回公開見学会」において、入試や入学に関わる説明会とともに、中学生にむけた講座をいくつか準備して、実施しています。今年度、その中の講座「ようこそ先輩」において、現在、言語聴覚士として働く近藤友美さん（2003年度卒）と、若者の就労支援を行うNPOで働く江ノ上敦士さん（2001年度卒）がお話をしてくださいました。会場では、福祉の仕事に興味を持つ中学生がお二人の話に熱心に耳を傾けました。中学生の皆さんの感想を紹介します。

- 障害を持っている人自身が良い方向へと進んでいくと、本人だけでなく、その家族も喜べるということが先輩の話からわかりました。『誰かの笑顔のために自分も頑張る』ということがとても素敵だと思いました。
- 前まではただただ空間にさまよっている感じだった人が、特定の人にかけるまでになったというお話を聞いたとき、人間の成長する力のすばらしさを感じました。自分と一緒にトレーニングしている人が成長してくれるのは、言語聴覚士の方にとっても大変うれしいことだと思いました。障害を持った方と一緒に成長をしていける、そういう仕事に就くことができたらいいなあと思いました。
- 私も将来福祉分野で働きたいと思っています。NPOのサポートステーションでは、進路や就職で悩む人のサポートをしているため、人と関わるのがとても多いとわかりました。人と関わる仕事をぜひ、私もしてみたいと思います。
- 先輩の話聞いて、この学校のいいところは個性を大切にしてくれるところだと理解しました。お二人の話を聞いてますます日福に入りたいと思うようになりました。



卒業生の皆さんの活躍は、これから未来を切り拓いて行こうとする中高生の皆さんの大きな目標であり、励みとなっています。これからも、こうした講座や高校の授業で取り組まれている「キャリア開発」の授業で卒業生の皆さんのお力を借りることがきっとたくさんあると思います。

どうぞ、よろしくをお願いします。

（教頭：山口喜久枝）

2013年度ゆりのき祭

2013年9月29日（日）

ゆりのき祭（日本福祉大学付属高校の文化祭）にて、同窓会として展示ブースと餅の振る舞いを行いました。今年は、20名を超える運営メンバーで例年より多くのOBが集い、実際に石臼で餅をつき、盛大に運営をすることができました。

展示ブースの教室では、餅の振る舞いと付属高校の歴史や同窓会の活動を展示し、ブース外のテントでは、実際に餅つきを行いました。

文化祭ということもあり、付属高校の在校生だけでなく、在校生の家族・卒業生が来校しており、同窓会という組織のPRをすることができました。

その他、来校していた方の中に、入学を考えている中学生やその保護者がいました。その方達に対しては、卒業生ならではの高校のPRをすることができました。特に、中学生等は、高校の雰囲気や付属高校の卒業生がどのような仕事に就いているのか？ということに関心を持たれており、高校の広報面でも同窓会として少なからず協力できたと思います。

卒業して半年の卒業生から何十年と経つ卒業生まで、本当に楽しく和気あいあいと運営しておりますので、「久々に母校に行きたいな」という方は、ゆりのき祭をきっかけに是非同窓会ブースまで遊びに来て下さい。



高校の近況報告



「誰かのために」

校長 岩本 憲之

同窓生の皆さん、お変わりありませんか。今年度は学園創立60周年、付属高校55周年という記念の年でした。早いもので美浜校地に移転して31年が過ぎました。高校55年の歳月の中で、校名は日本福祉大学付属立花高校から立花高校、そして日本福祉大学付属高校と変遷しましたが、学校の目指してきたことは、学園創立者で高校初代の校長でもある鈴木修学先生の教えに他なりません。先生は学園創立にあたって「この悩める時代の苦難に身をもって当たり、大慈悲心、大友愛心を身に負うて社会の革新と進歩のために挺身する志の人を、この大学を中心として輩出させたいのであります」と建学の精神に記されました。

その精神を汲み取り、付属高校においては「誰かのために」を合言葉に、日々様々な教育活動にとりこんでいます。それはボランティア活動であったり、介護職員初任者研修へのとりくみであったりしますが、生徒諸君の心の中に（まで）しっかり行き届いた精神であると言えます。

鈴木修学先生のことを紹介した「日本の福祉を築いたお坊さん」という本がありますが、その本を読んだ生徒は次のような感想を述べています。「幸せになりたければ、幸せの種をまく必要があります」（修学先生）「この言葉を読んだ時、今までの僕は、自分が幸せだと良いなという考えで、幸せの意味がわかりませんでした。しかし少しだけでも幸せの意味がわかった気がします。自分だけが幸せになろうとせずに他の人に幸せになってもらうようなことをする。そうすることで自分にもいずれ幸せがやってくる。誰かを幸せにすることが幸せなんだということがわかりました」と。

無縁社会という言葉がテレビに登場したのは3年前ですが、高齢社会が加速化しつつある現代、お年寄りに限らず、働き盛りの世代や若者も含め、一人ひとりがバラバラにされ、関係が希薄化し、自己責任ばかりが声高に叫ばれる昨今、修学先生の教えはますます光輝き、注目すべきものとなっています。皆さんの母校である付属高校は、これからも建学の精神を心の拠り所として、たくましく心優しき若者を育てていく決意であります。

同窓生の皆さん、この学び舎で培われた精神を思い起こし、厳しい時代ではありますが、助け合いながら、日々お元気で過ごされることを心から祈念申し上げます。



祝・県大会出場！

女子バレー部

女子バレー部は、先輩方（OG）が築きあげてくれた伝統（気風、練習、実力）を引き継ぎながら、また、自分たちの課題に合わせた練習メニューを取り入れながら、日々、地道な練習を積み重ねています。そして、自分たちの実力を確かめるために、積極的に練習試合にも出かけています。ここ最近では、実力がUPしていることを実感しつつ、練習試合の対戦校も徐々にレベルの高い格上の学校を選び、課題を見つけてはプレーを修正し、練習を重ね、着々と実力を蓄えてきました。

今年に入ってからは、4月に新入生3名を加え、計8名で活動をしてきました。例年通り、「県大会出場」を少し先の目標におきながら、まずは「知多地区ベスト4」入りをリアルな目標として公式戦を闘ってきましたが、ここ数年同様、何度もあと少しのところまで破れ、悔しい思いを繰り返してきました。しかし、10月におこなわれた3年生最後の公式戦でもある「全国高校選手権大会」知多地区予選大会では、これまで何度も阻まれてきた2回戦の壁を突破し、ベスト4に入賞するとともに、翌日の順位決定戦では第3位に入り、少し先の目標であった「県大会出場」まで一気に決めました。

今のチームの悩みは、人数の少なさです。わずか8名という人数で県大会出場できたことは誇りではありますが、選手層の厚いチームにはどうしてもかないません。「楽しく、だけど真剣に」をモットーとして活動しています。同窓生の皆さん、バレーに興味のあるお子さんが近くにいましたら、「日福のバレー部どう？」と声をかけてあげてください。



演劇部

演劇部は、平日は毎日、大会や公演が近くなったら土日でも活動しています。大会は7月の地区大会、3月の合同発表会に参加しています。9月のゆりのき祭では演劇部の上演だけでなく、舞台発表クラスや文化部の発表時にも照明を当てたり、音響を操作したりします。また10～11月にかけて行われるオータムフェスティバルでは、4年前から60分の小演劇を上演するようになりました。さらに式典の照明・音響も担当します。舞台を使う行事において、演劇部は欠かすことのできない存在になりつつあります。

日常的には、ランニング・柔軟・腹筋・背筋等、発声練習、エチュードを行い、地区大会の突破や公演の成功を目指して体力の向上やお芝居を作る練習などを行っています。

2013年7月に行われた「第66回中部日本高等学校演劇大会知多地区大会」において「優秀賞」を受賞し、22年振りに県大会へ出場することができました。県大会では「奨励賞」を受賞。残念ながら次の中部大会へ駒を進めることはできませんでしたが、仲間とひとつの舞台を創り上げる楽しさを再確認することができました。私たちにとって大切な経験となりました。この経験を糧に、3月の合同発表会も頑張ります。



● 恩師は今 ●



遥か遠くへ
来たもんだ

宮本 純

在職：1973年4月～
2014年3月

1964（昭和39）年に日本福祉大学附属立花高等学校に入学。学年はL組までの12クラス。進学クラスは53～55人学級。講堂は特別教室に改装された。昭和23年生まれ。団塊世代の一番ピークの出生数。受験・就職も大変な時だった。

1973年、母校に理科の教員として勤務。2014年3月退職。40年間の専任教員の仕事が終わる。平均寿命80年と言われる半分をこの学校で生徒と共に格闘・奮闘してきた。この間30クラスの担任として、主任・副担任として関わり輩出した卒業生は4103名。今年の生徒を加えると4243名となる。全卒業生の31.7%にあたる。初めて送り出した生徒は56歳。それぞれが社会で活躍している。一方若くして亡くなった卒業生が少なからず

いる。今も友達の心の中で生き続けている。改めてご冥福を祈りたい。

教師として生徒に一貫して要求してきたことは「本当の自分と向き合え」ということだった。私を含め人は、やもすると楽な方に流れる。高校生ではなおさらだ。しかし理想や夢を持った時、実現しようとする意欲は持っている。そこに火を点け、クラスが一つになることに全力を挙げ、多くの生徒が育った。社会に出て、多くのことが役立っていると思う。

私はこの学校の教師となって「要求することは尊敬すること」（マカレンコ）を学んだ。生徒に要求する自分自身も鍛えられ成長させられた。そして、多くのドラマが創り出された。一つ一つが卒業生諸君との思い出であり、共有の財産である。

ありがたいことに、多くの方から「定年」を迎える年齢には見られない。40年間に会った生徒たちから、多くのエネルギーをもらったのであろう。過去を振り返る人生ではなく、前に向かって生きられる人生を歩み続けたいと願っている。卒業生のみなさん、本当にありがとう。

2013年度在職教職員紹介

職務	氏名
校長	岩本 憲之
教頭	山口喜久枝
教務部長	山口喜久枝
生活指導部長	竹内 智司
進路指導部長	伊藤 克之
渉外部長	今田 和弘
1学年主任	青木 律子
2学年主任	松永 太志
3学年主任	加賀 敏美

氏名	担当教科
青木 律子	英語
荒谷 美佳	保健体育
石崎 撰	国語
伊藤 克之	国語
今田 和弘	地歴公民
岩橋由美子	養護
岡部 道宣	数学
奥田 章子	英語
加賀 敏美	数学
神谷 貴史	保健体育
河合理恵子	理科
君塚 磨	数学

氏名	担当教科
近藤美穂子	地歴公民
榊原 智穂	英語
重藤 信夫	英語
清木 敦史	理科
竹内 智司	保健体育
武智 静香	保健体育
田中 理恵	英語
土屋 貴則	数学
丹羽将一朗	地歴公民
長谷川友紀	英語
半田こすも	国語
日高 幸浩	数学

氏名	担当教科
古川 蘭	国語
松永 太志	地歴公民
松久 直史	地歴公民
宮東 靖浩	理科
宮本 純	理科
三好 祐輔	数学
向井 直紀	地歴公民
村橋 俊介	保健体育
森 あゆみ	国語
山口喜久枝	国語
山田 育世	情報

☆★編集後記★★☆

会報17号を発行しました。先生と同窓生にお願いして、原稿を書いて頂きました。

お引き受けいただきました方に、心よりお礼申し上げます。

皆様ぜひお読みください。

今年度から、会長、副会長が変わりました、今まで以上に同窓会活動の充実を行って行きたいと思います。

日本福祉大学附属高等学校
同窓会

〒470-3233 愛知県知多郡美浜町奥田字中之谷2-1
TEL (0569) 87-2311 FAX (0569) 87-2312
<https://www.netnfu.ne.jp/koko-dosokai/>